

**聖徳学園と蘇西厚生会の連携始まる！
～ 協定調印式～**

4月28日(火)、学校法人聖徳学園(岐阜市)本館8階にて、学校法人聖徳学園・杉山元彦理事長と当法人の松波英寿理事長により連携協定調印式がとり行われました。この協定は地域医療の担い手育成を双方のマンパワーや情報を駆使して推進する目的で、具体的には、岐阜聖徳学園大学看護学部で松波総合病院の医師14名が順次臨床医学講座の講義を展開したり、当院のカンファレンスに大学スタッフや学生が参加して研鑽をつむなどの交流からスタートします。



記者発表にのぞむ松波英寿理事長(中央)



海外からステファン・リンチ教授が当院を訪問

4月22日(水)、オーストラリアからプリンセス・アレクサンドラ病院のステファン・リンチ医師が訪問されました。ステファン・リンチ医師は、クイーンズランド大学の外科教授、プリンセス・アレクサンドラ病院 Surgical Services Metro Southでの肝移植部と外科の現在の会長で、松波英寿理事長がオーストラリアに留学された時からのご友人です。当日は、当院のヘリポートなど新しい設備を中心にご案内しました。当院では、引き続き国際交流を深め、全世界に情報発信できるよう努めてまいります。



国旗をかかげて歓迎



理事長(左)とステファン・リンチ医師(中央) ※ヘリポートより

プリンセス・アレクサンドラ病院の月刊誌で松波総合病院 北館内覧会が紹介されました！

総合内科／山田梨絵医師が学会発表で快挙！

5月23日(土)～24日(日)、福岡県(福岡市・アクロス福岡)で開催された第4回臨床高血圧フォーラム(主催:日本高血圧学会)で、山田医師が“Young Clinician AWARD”を受賞しました。若手から中堅医師までを対象に優れた発表に贈られる賞で、演題名は「家庭血圧は正常域血圧であった原発性アルドステロン症(PA)についての検討」です。Face bookでも、賛辞の「いいね!」や「先生の今後のご活躍に熱く期待します。」などメッセージが寄せられています。ご覧ください!



中日新聞
2015年(平成27年)4月30日(木)
▲2015年4月30日付 中日新聞掲載 ※この記事・写真等は中日新聞社の許諾を得て転載しています。
岐阜聖徳学園大学と松波総合病院の連携協定調印式が、28日、岐阜市本館8階で行われました。学校法人聖徳学園の杉山元彦理事長と、松波英寿理事長が協定調印式を行いました。協定は、地域医療の担い手育成を双方のマンパワーや情報を駆使して推進する目的で、具体的には、岐阜聖徳学園大学看護学部で松波総合病院の医師14名が順次臨床医学講座の講義を展開したり、当院のカンファレンスに大学スタッフや学生が参加して研鑽をつむなどの交流からスタートします。

岐阜新聞
2015年(平成27年)4月29日(水)
▲2015年4月29日付 岐阜新聞掲載 ※この記事・写真等は岐阜新聞社の許諾を得て転載しています。
岐阜聖徳学園大学と松波総合病院の連携協定調印式が、28日、岐阜市本館8階で行われました。学校法人聖徳学園の杉山元彦理事長と、松波英寿理事長が協定調印式を行いました。協定は、地域医療の担い手育成を双方のマンパワーや情報を駆使して推進する目的で、具体的には、岐阜聖徳学園大学看護学部で松波総合病院の医師14名が順次臨床医学講座の講義を展開したり、当院のカンファレンスに大学スタッフや学生が参加して研鑽をつむなどの交流からスタートします。



セミナー参加
医療と介護の
交流深まる



より強い地域連携を目指し
地域のドクター、スタッフが集結

第14回 濃尾医療連携セミナー | Nobi medical cooperation seminar

これからの地域医療のあり方を共に考えた有意義なセミナー

2015年4月25日(土)、岐阜市内のグランヴェール岐山にて、「濃尾医療連携セミナー」が開催されました。今年で14回目となり、連携医の先生方、当院医師・スタッフ、医療・介護関係者ら、250人が出席。初めに、松波総



特別講演の神野正博先生

合病院 山北宜由病院長が、「濃尾医療連携研究会のこの一年」を総括し、続いて松波和寿副院長より「岐阜県地域医療連携ネットワーク(ぎふ清流ネットワーク)参加について」報告がありました。一般講演では、当院・副院長、呼吸器外科部長 春日井敏夫医師から「肺癌治療の現況～当院の肺癌手術症例を通して～」についての発表が

ありました。特別講演では、社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院(石川県七尾市)・理事長 神野正博先生より「地域包括ケアシステムにおける病院の役割について」と題し、ご講演を賜りました。



「濃尾医療連携研究会のこの一年」について語る 山北病院長

要旨

地域の見守り力が低下している現代社会で医療と介護を考える時、人口減と少子高齢社会、医療崩壊と地域崩壊、社会保障費の削減が大切なキーワードとなる。これらを勘案し、高齢者には長く入院してもらうのではなく、基本的には自宅や高齢者住宅などで療養してもらう「地域包括ケア」の構築が必要となっている。昨年からはまった病床

機能報告制度と地域医療構想の策定も地域における医療と介護の総合的な確保を図るための改革の一端であり、その地域の医療需要に応じた病院機能の必要量の推計を目的としている。当地区では、地域包括ケアの本質は、連携を更に進めて「統合・同盟」にあると考えている。実現には、強いガバナンスと情報共有がその両輪

となり、これらを駆使したつなぎ役・ジェネラリストも必要である。また、持続可能な体制構築には、医療の垂直連携、地域の医療と介護のケアミックス化が付随し、生涯を通じた医療+介護の提供は、日常生活圏域で行われる。つまり、包括ケアシステムは、地域振興、街づくりなのである。病院の品質から地域の品質が求められる時代になっている。

講演会のお知らせ **第100回 すこやかネットワーク** 【日時】平成27年7月16日(木)19:30～ 【テーマ】「糖尿病患者の血圧管理」 【講師】山北宜由 病院長 ※軽食をご準備させていただきます。

セミナーにて当院のドクター2名が旬のテーマで熱く講演

第14回 濃尾医療連携セミナー | Nobi medical cooperation seminar

地域連携情報共有システムで医療はどう変わる?

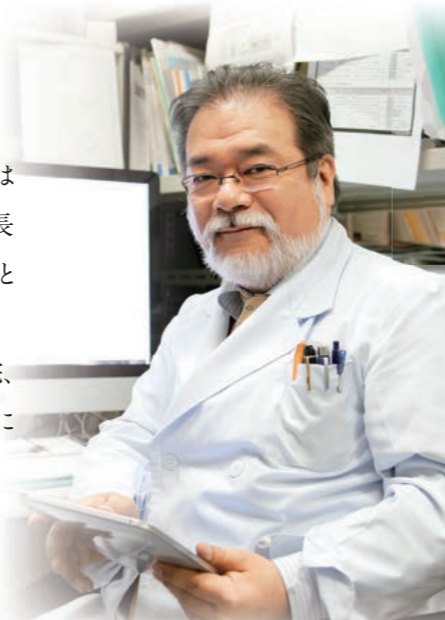
今年度より岐阜県地域医療連携ネットワークが中心になり、地域連携情報共有システムが構築されました。具体的には患者様の同意があればクリニックの先生がいつでも病院での検査データや画像などを見ることができる仕組みです。通常、病院から診療所へは診療情報提供書という書面で患者様の情報が

送られます。しかし、その情報はサマライズされて把握しやすい情報である一方、膨大のデータの一部しか伝わりません。そこで、このシステムを使えば、診療所の先生が必要な時に見たい情報を診療所のパソコンから見ることができます。診療所の先生にとっては自分が紹介した患者さんが病院での治療をいつでも

知ることができますし、患者様にとっては重複した検査をする必要がなく、また長期にわたる治療経過を把握できることは大変安心なことです。

まず、松波総合病院と岐阜市民病院、長良医療センターで開始され、徐々に拡大していく予定です。

副院長 産婦人科部長 **松波 和寿**



入院期間が10年前の半分となった肺癌手術

肺癌は死亡原因第1位の癌で、日本人の死因の5.7%を占めており、現在も増加傾向です。当院でも肺癌患者さんは増加しており、近年では1年に60~70人の方が新たに肺癌となり当院に受診されています。このうち約7割の患者さんに手術を行っています。当院では通常の肺癌手術は胸腔鏡で行っており、ほとんどの患者さんは術後2週、長い人でも1か月もすれば、

痛みを気にされなくなります。入院期間は徐々に短くなっていて、2014年の手術後の在院日数は中央値5日(平均は8.2日)で、これは10年前の半分以下の日数です。すなわち、月曜日に手術を受けると(入院は日曜日です)、半分の患者さんが土曜日までに退院されたことを示しています。

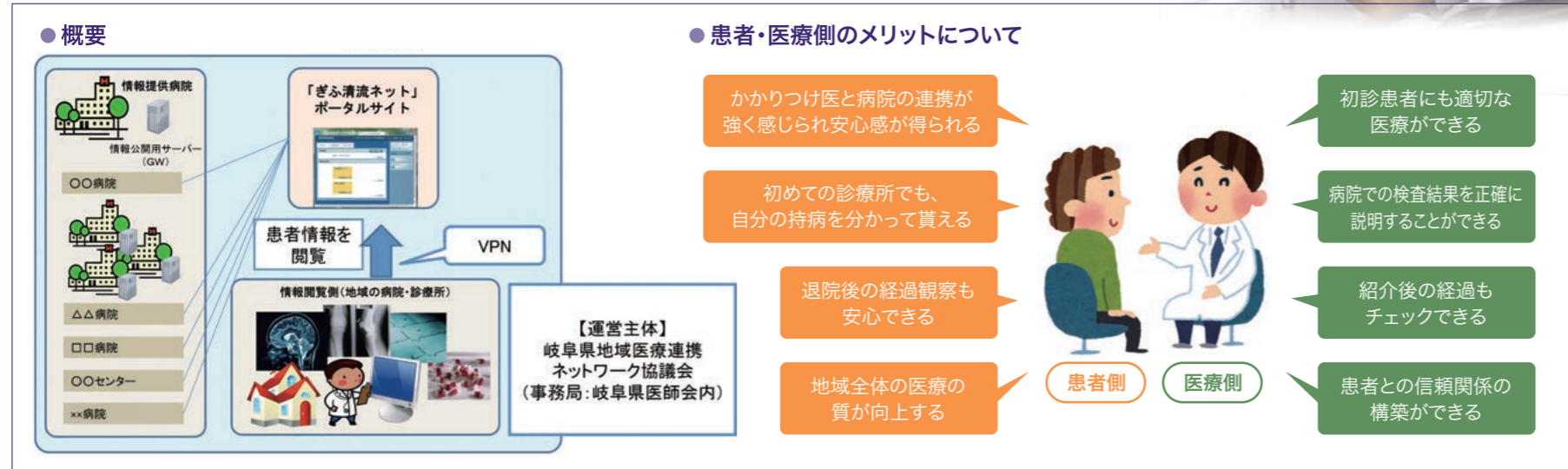
副院長 呼吸器外科部長 **春日井 敏夫**

[講演内容] 肺癌治療の現況~当院の肺癌手術症例を通して~

- **肺癌手術の合併症と経過について(当院で渡す説明文より抜粋)**
 原発性肺癌の手術において以下のような経過、危険が考えられます。
 - 1 手術中...術中死の可能性は0.1%*
 - 2 退院まで...通常、手術当日夜より飲水は可能で、翌日より歩行、食事ができます。手術後1週間程度で退院となります。(手術後に頻度の多い合併症*)間質性肺炎、膿胸、肺腫、気管支断端瘻、乳糜胸、肺塞栓症など。
 - 3 退院後の日常生活...痛み、息切れ、咳などがありますが、術後1~2か月までは徐々に良くなります。職場復帰は、退院後1~4週間の方が多いです。
 - 4 術後の経過観察について...肺癌の手術後生存率は進行度によって異なります。術後5年程度の定期的な経過観察が必要です。
- **日本人の死因別死亡率**
 2013年 厚生労働省「人口動態統計」より
 肺癌 9.7%、心疾患 15.5%、脳血管疾患 9.3%、老衰 5.5%、不慮の事故 3.1%、自殺 2.1%、その他 26.0%
- **原発性肺癌術後在院日数**
 2001~2014年の推移グラフ
 中央値: 22.2 (2001), 21.1 (2002), 18.1 (2003), 16.6 (2004), 10 (2005), 15 (2006), 9.3 (2007), 10.1 (2008), 8.9 (2009), 14.1 (2010), 8 (2011), 8.2 (2012), 5 (2013), 5 (2014)



[講演内容] 岐阜県地域医療連携ネットワーク(ぎふ清流ネットワーク)



小牧内科クリニック



地域の皆さんを社会全体で支援していく重要性を実感

今回のセミナーでは、松波総合病院や七尾市における恵寿総合病院の未来を見据えた先進的な取り組みのお話しをお聞きました。限られた資源を使い、多くの医療介護福祉サービスを充実させていく時、地域包括ケアシステムは松波総合病院のような核となる施設を

中心に、医療や介護だけでなく地域社会や住人を巻き込んだ取り組みが必要です。こういった地域の方々を社会全体で支援していく輪の中に我々も加わり、その一翼を担っていきたく感じました。

小牧内科クリニック院長 **小牧 卓司**

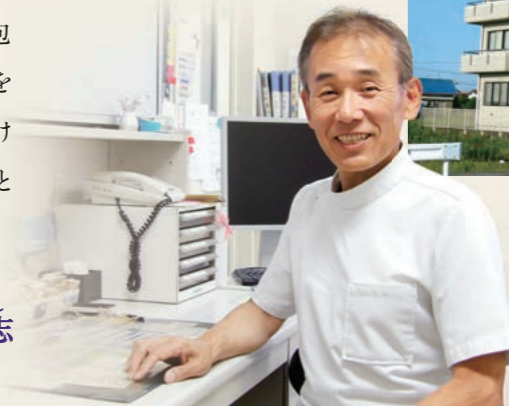
セミナーに参加された地域 医療を担う先生からのメッセージ

地域医療のこれからを考える良い機会になりました

今回は恵寿総合病院の神野正博先生から「地域包括ケアシステムにおける病院の役割について」のお話しを伺いました。地域包括ケアシステムでは病院とかかりつけ医が連携から同盟となり医療介護サービスを提供すると話されたのが印象的でした。

岐阜外科院長 **澤田 逸志**

岐阜外科



【住所】岐阜県岐阜市東中島1-17-8
 【TEL】058-248-6226
 【診療科目】外科、整形外科、内科、リハビリテーション科